

知事記者会見（平成24年8月6日）

●知事発表

- （1）台湾・台北市への訪問について
- （2）秋田県県民栄誉章の授与について

●幹事社質問

- （1）プーチン大統領から贈呈される猫について
- （2）中国・天津市への訪問の結果について

●その他

- （1）首都圏の焼却灰の受入れ再開について
- （2）鹿角市の秋田八幡平クマ牧場の事故の対応について
- （3）全県駅伝について

時間：13：16～13：52

場所：プレゼン室

（幹事社）

よろしく願いいたします。

（知事）

はい。私の方からは2件、発表事項ございます。

まず最初に、台湾の訪問についてであります。明後日、8月8日に羽田を立ちまして11日に帰ってまいりますけれども、台湾を訪問することになっております。その概要について御説明申し上げます。

東日本大震災以降、停滞している台湾からの東北や本県への誘客を促進するため、台湾政府に対して東北の安全・安心をPRするほか、現地の航空会社や旅行会社に対し、今秋以降のチャーター便の運航、あるいは旅行商品の造成と販売について協力を要請するものでございます。物産関係では、大手の小売店を訪問し、台湾での県産品の販路拡大について協力を要請するものでございます。

なお、航空会社や旅行関係事業者に対して、仙北市長、北秋田市長、この両市長さんも一緒にまいります、合同でセールスすることにしております。

実は、台湾からの秋田へのルートというのは、チャーター便が一つと、もう一つは仙台空港にエバー航空の定期便が入っております。そういうことで、今、両面作戦でやっております。

一つは、仙台空港の定期便のお客様に対して、秋田をめぐる、秋田に必ず立ち寄るルート、旅行商品を設定してもらおうということで、エバー航空ですけれども、エバー（航空）の関係者も既に由利本荘地区も視察に入っておりますので、そういう点も踏まえて、一つは定期便の客をいかに仙台空港から秋田に連れて、こちらに誘客するかという、もう一つは、震災の前は一つは割と順調にいったんですけども、震災後やはりまだ少し戻ってないと。そういうことで、山形と組んで昨年、いわゆる庄内空港、秋田空港間のイン・アウトの関係でやって、これが一定の成果が上がっております。

ただですね、昨年のちょうど震災の前ですけどね、大館能代空港にもチャーター便が来て、初めてあの年に誘致したんですけども、これが震災の関係等、今年の冬は、まあ今年というか、この間のね、この1、2月はこれはなかったんですね。ですから、このやはり内陸線なんかは非常にそういう意味では台湾の関係の方が乗りますので、そういう点も踏まえて大館能代空港へのチャーター便ということも依頼をしてきます。そうしますと、当然、北秋田市と仙北市と協調関係でやらないきゃならないということで、お二人の市長さんもまいります。

あと、仙北市と台北の温泉との協定ができておりますので、こういう点もいろいろ繰り返し繰り返しということになるかと思えます。

そういうことで、もう一つは小売店関係ですけれども、常時扱っていただいているところ、大手がありますので、やはりこういうところというのはフェイス対フェイスできちっとフォローしていきませんと、各県非常に競争が激しいもんですから、我々としては今までの取扱いのことに対して御礼を申し上げるとともに、さらにこれを拡大、新しい品目等についてもPRしてくると、そういうことでございます。これが第1点でございます。

もう一つは、秋田県の県民栄誉章の授与についてであります。

7月17日の記者会見でもお話を申し上げましたけれども、先月16日に埼玉県春日部市で行われました世界ボクシング評議会(WBC)フライ級タイトルマッチにおきまして、由利本荘市出身の五十嵐俊幸さんが、世界王座初挑戦でタイトルを獲得されました。

本県出身のプロボクシングにおける世界タイトルの獲得は、昭和53年に五城目(町)出身でWBAジュニアミドル級王者になった工藤政志さん以来、二人目の快挙でございます。まさに世界チャンピオンでございます。

県といたしましても敬意を表したいということで検討を進めてまいりましたけれども、このたびの偉業は、県民に対し、明るい希望と大きな感動をもたらしてくれたと、また、スポーツ立県宣言をした秋田にとっても非常に名誉なことということで、秋田県の県民栄誉章を贈呈し、顕彰することにいたしました。五十嵐さんの方との日程調整の結果、9月7日に顕彰式を執り行うことにしております。

私からは以上でございます。

(幹事社)

はい、ありがとうございました。ただいまの発表事項等についての質問等おありでしたらよろしくお願いたします。

(記者)

すいません、ボクシングに関してなんですけど、五十嵐選手なんですけど、これからどんなチャンピオンになってほしいかという期待が一つと、まあこれが秋田県にとって、秋田県民にとってどういう影響を、影響というか、どういう効果を及ぼすかというところをお願いします。

(知事)

はい。まずですね、五十嵐選手、いずれ次は、今度はタイトル保持のための試合がございます。是非ともですね、できるだけこの後もタイトル保持のために努力をしていただきたいなと思っております。

いずれにしてもですね、世界チャンピオンというのはなかなか望んでなれるものではないという、そういうものであります。ちょうど今、オリンピックでも金メダルがなかなかとれないという状況の中で、秋田は、様々なスポーツ活動を今一生懸命やっておりますけれども、やはり大きな目標を持って努力すればトップになれるという、そういうことをですね、子供方、また、スポーツに携わっている方にはですね、そういうことで励みに非常になるのではないのかなと思っております。

今までもですね、スポーツ関係、この県民栄誉章、かなりいるんですね。どちらかというと、県民栄誉章、割とこのスポーツ関係が多いんですよ。どうしてもやはりスポーツ関係というのは、まあ県民共通のね、ある程度の、自分でやるやらないにしても話題性にも富みますし、また、人間のその努力の形というのは一番こう表しやすいものでありますので、まあそういうことで、この後やはりスポーツの世界で、どの種目においても県内でトップになれるような、そういう人が出て、輩出していただきたいなという意味も込めたものであります。

(記者)

もし防衛を重ねていった時には、工藤さんは秋田市立体育館で防衛戦をやったりしてるんですけども、これを呼び込むみたいな考えはあるんですか。

(知事)

あの、いずれですね、やはり地元の人ですので、そういう一つのスポーツビジネスにもなりますけれども、そういうこともですね、できればという話ではありますが、まだそこまでは至っておりません。

今、発表させていただいたということは、本人にこれから正式にいろいろ手続きとりますので、そういう中で当然そこもなかなか、これは本人だけじゃなくてやはりいわゆるこのコミッショナーの、そういう方とのあれ(調整)もあるでしょうけども、私としても、個人的にもね、やっぱり地元でタイトル戦やるとすごい盛り上がるだろうなと思えますね。ええ。

(記者)

ありがとうございました。

(知 事)

はい。

(幹事社)

ほかにいかがでしょうか。

それでは、幹事社からの質問に移らせていただきます。幹事社から2問ほどお伺いしたいと思います。

まず1点目なんですけれども、先日、ロシアの方に県職員の方が行かれまして、プーチン大統領に無事、秋田犬の贈呈を済ませられて、プーチン大統領の方からはお礼として猫を贈呈したいというような御意向も示されたようですけれども、今回のこの一連のことについての、まず知事の御所感をいただければと思います。

(知 事)

はい。私どもそのあんまり、何と申しますか、その裏読みしてね、打算的な形じゃなくて、やはりプーチン大統領が犬がお好きだということ。そして秋田犬というのは世界的に大変評価を受け始めているということ。そして、いろんな問題・課題はありますけれども、お隣の一番秋田に近い国だということ。さらには、秋田としても東アジア戦略をこれから推進する上で非常に重要な国であるということでもあります。

どういう状況になっても、やはりロシアと基本的には友好的な状況でこれからお付き合いしていくというのが、この秋田にとっても日本にとっても私は有益ではないのかなと、そういうつもりで秋田犬をお贈りをしたということでございます。

これに関して、私の個人的なホームページに何件かですね、ロシアの方からメールが入っておりました。すぐ読めませんので、いろいろ訳してもらったりしてますと、非常にですね、ロシアの方もですね、何と申しますか、良かったと、非常に何と申しますか、喜んだ形でのメールでありました。

中にはですね、是非とも私も秋田犬を、犬が好きで飼育したいので、ブリーダーをといますか、紹介してくれというのがあって、これからどういう返事を書こうか迷ってますけれども、そういうことで、いずれプーチン大統領も大変喜んでいたようであります。何かにつけて毎日一緒にお暮らしになるようでございますので、秋田犬、秋田という名前は毎日頭の中にこう染み込むんじゃないかと思えます。

ちなみに、ある消息筋からは、多分、日本の知事でプーチンさんが覚えているのは佐竹知事だけだろうという、そういう話もありました。

それはそれとして今度は猫がいただけるということで、これもやはりあちらの方で私のことを調べたのかなと。多分、猫好きじゃないとね、猫好きでない人に猫ってという話は出てこなかったんでしょうけど、たまたま私が猫好きで猫を飼っているというそういうことから猫を贈っていただけるという話で打診があって、私も最初ね、戸惑ったんですね。御承知のとおり、あちらはもう大統領公邸でね、お付きの人がたくさんいて、多分、あちらの大統領は大統領終わってもね、ちゃんと大変な邸宅に住んで、そういう方が、まあこっちは普通の、知事辞めればただの人ですのでね、そういうことも踏まえたんですけども、

いろいろ私も日本のただ普通の家庭の猫好きで、それと同じような形でよければという話で、それでも結構だということで、むしろ家族の一員として普通の日本の猫ちゃんと仲良くなってもらいたいというそういう趣旨でもございましたので、それじゃあお受けするかということ、お受けするという前提での連絡をさせていただいたところでございます。

(幹事社)

もしはっきりしていればなんですけども、その猫がですね、贈呈されるそのスケジュール的なもの、いつ頃にとかというものが分かっていたらということ、例えばお名前とかどうされるとかかってもう考えてらっしゃるんでしょうか。

(知事)

あのですね、ところが、私どもの方は犬をお贈りする際に、いずれそのお贈りする時期だとかね、その犬を想定して、こういうぐらいの年代でこのぐらいのってある程度、前から水面下で準備していたんですけども、あちらの方は突然の話なものですから、まだですね、どういう猫をいつ頃どういう形でということは、これから検討しながら情報が入ってくるということで、まずは猫を贈るとすると受けるかどうかという、そこがクリアしたんでありまして、その後の情報というのはまだこれからなようでございます。

特に日本の場合、外国からの動物の検疫だとかそういうものが非常にシビアですので、当然そういうものを全部クリアするという形になると少し時間はかかるのかなと。

それと、私どもの方、どういう形、どういう感じなのか、名前もね、そうでないといけないものですから。まさか最初から「プーちゃん」というわけにはいかないでしょうから、これはちゃんと確認した上で、いい名前をつけなきゃならないということで、まだですね、思いのほかちょっと時間がかかるみたいですね。そもそもその猫がいるのかどうか、これから探すのかね、そこら辺がよく分かりません。ええ。

(幹事社)

はい、ありがとうございます。

それでは、幹事社からの質問、2点目なんですけども、これは少し前の話で恐縮なんですけど、先週会見がありませんでしたので伺わせていただきます。

天津の方に知事訪問してこられて、協議書に締結されてこられたわけですけども、今回の天津訪問の成果について一言お伺いできればと思います。

(知事)

はい。あの、天津市というのは大変大きな市でありまして、経済的にもすごい活力を持っております。今回、黄興国天津市長さんと、一昨年も会談しましたがけれども、今年も、今回も会談をいたしまして、将来の友好協定締結に向けての協議書にサインをいたしました。

私どもとしては、いろいろと海外との友好交流協定、あるいは姉妹都市だとかですね、経済協定やってますけども、やはり我々としては基本的にいろいろな、中国でも甘粛省との古い形、今年が30周年ですか、あるいは吉林省、延辺朝鮮族自治州とも交流協定を結

んでおりますけれども、実は港で完全に航路がつながれているというところは、今回、中国では天津が初めてであります。

定期的に、釜山経由ですけれども、船が行き来しております。実際に年間、まだ少ないんでありますけれども1,000本を超えるコンテナが天津と秋田の間を行き来をしているということ。

そういうことで、我々としては経済活力というか、今後の成長が期待でき、特に温家宝さんの出身地でもございまして、中国政府としても天津が次の重点投資地域という、そういう位置づけになっているようでございます。

いずれにしても、ビジネスの機会が大分増えるだろうと。既にエアバスの工場があって、それに対して秋田の輸送機コンソーシアムの人が、2、3年前から接触を行っておりますけれども、そういう下地もございまして、我々としては秋田の様々な農産物を含めて貿易、あるいは観光客の受け入れ、もう一つは、天津というのは非常に昔の面影が残った、いわゆる西洋的な、イギリス租界だとかね、イタリア租界だとか、そういう昔のその外国の居留地があったものですから、それが非常にきれいに残ってます。そのまちな行くと、全くイタリーに行ったかのように錯覚します。イギリス租界だとイギリスのまちです。非常にこちらからもですね、行きやすい、なじみやすい観光都市であります。

そういうことでありますし、また、羽田経由でもですね、そう時間がかからない。仁川経由だと、秋田から仁川、仁川から天津というのは2時間ぐらいで結ばれますので、そう遠くないわけです。空路と海路が直接入ってますので、いずれ私は、これからの県の努力次第ですけれども、今までの交流都市の中では最もですね、多面的な交流ができる都市ではないかということでございます。

こういうことについて、天津の市長さんといろいろと意見交換、話し合いをして、天津市の方も、実はもう2月にいわゆる観光のためにこちらに使節団を送ってますしね、テストケースとして秋田の温泉巡りをしたわけでありまして。あと4月には、天津市の市役所の職員約30名が秋田に1泊をして、男鹿に1泊して、秋田の視察をしていったわけでありまして、天津市さんの方も、一昨年私が行ってから逆にそういう動きを見せているということは非常に興味を持っていると、そういうことではなからうかと思えます。

天津市はですね、余り、日本の地方都市とは余り付き合いないんですね。神戸が中心です。ですから、そういう形で秋田においてもかなりいろいろこれから拡大できるものと。

もう一つは、いずれこれから本格的な友好協定締結を果たすためには、これですね、国の承認が必要なんですね、中国、ロシアも。国の承認がないものについては、例えば市長さんが代わったり体制が変わると、向こうの場合はですね、やはり国の承認があるものについては、これはいろいろなことでかなり実効的にその協定の内容が担保されるということになりますので。中国の中国人民対外友好協会というところがございまして。これは日本のいわゆる日中友好協会とは違って、中国の正式なお役所でございます。中国人民対外友好協会というのは、前の中国の外務大臣、唐家璇（※）が今、会長でございまして、その承認も経なきやなんないということで、帰りに北京でそこにまいりました。

※唐家璇氏は中日友好協会会長であり、中国人民対外友好協会会長は、正しくは、李少林氏。

井頓泉という副会長、これは中国外交部の官僚からなっている方で、日本で言うと、ま

あ外務省の局長クラスですけども、実は秋田市長時代、全国市長会の会長の時代も、この方を通してすべてやっております、何回か面識がございます。そういうことで、中国人民対外友好協会、すなわち国レベルでもきちっとした形でバックアップをすると、そういうお話も伺って、これから今度は個別の話を来年以降積み重ねて、できるだけ早く本協定に結びたいということで、両者はその点で、できるだけ早くということについては、両首長、あちらの黄興国市長さんとも合意をしております。

(幹事社)

はい、ありがとうございました。

それでは、各社、今の質問関連でも、関連しない質問でも結構ですので、よろしく願いいたします。

(記者)

焼却灰の受け入れの問題について質問します。

先週、小坂町が首都圏からの焼却灰の受け入れを再開する方針を発表しました。これについて県としての受け止めと、今後再開に向けて県の関与のあり方、また、大館市では一方でいまだ再開のめどが立っていないという、これらの点について知事の考えをお聞かせください。

(知事)

あの、私どもとしては、最初に8000ベクレルを超えたものが一部入ったということで、これで、これは非常にこの初期の段階で大変いろいろ混乱があったということについては、我々としてもそういう経験を踏まえてこれを解決しなきゃならないという意向でございましたので、十分やはり小坂町当局と、いわゆる企業側が意志疎通を図って、また、住民の方々、あるいは議会に対して様々な説明を重ねた結果、あのような4000ベクレルという水準以下のものということで、独自基準でということ、我々としては何と申しますか、あそこ全体がリサイクルエリアでありますので、企業活動が今後存続するためにもですね、ひとつのそういうことも必要でございますので、小坂町さんの決定、あるいは企業の対応については、私は県としては評価いたしたいと。

ただ、やはりそうはいつでもいろいろな、これから長い間、様々な形で不安を持たれる方もないとは言えないということでございます。もう一度、多分、小坂町さんと企業の間では詳細な公害防止協定のようものが結ばれます。当然、県としてもですね、当然その町当局だけでは様々なチェック、あるいはそういう検査の評価等が、これ技術的にもですね、私は小坂町が全部やるというのは無理だと思います。そういう点では、県もですね、最大限小坂町をバックアップして、そういう形でのチェック等々には、間接的ではありませんけれども小坂町と一体的にこれを行って、地元には不安のないようにしていかなきゃならないということを考えております。

大館市さんの方もありますけれども、これはやはり大館市さんの方もですね、今、住民の皆さんとの意見交換の最中でございますので、やはりそちらが、小坂が行ったから自動的にということはないと思います。それぞれの市町村の置かれた状況は違いますので、

これはこの後また見守っていきたいと思っておりますし、大館市さんから要請があれば我々としても必要なバックアップはしなければならないと思っております。

(記者)

八幡平クマ牧場のことについてお伺いしたいんですが、知事が6月議会中にもあったんですが、県が牧場を管理するようになった場合のコストの試算したいというお話があったんですが、その試算コストは今のところ出てまとまったのかということが一つと、現在の受け入れに関する進捗状況を教えていただけますでしょうか。

(知事)

どういう形で飼うのかでね、大分違ってきますので、今そのコストそのものをですね、断定的にちょっと言うという話にはならないと思います。ケースによって余りにも違いますので。

もう一つは、今の段階で、今、皆様方の知り得ている情報以外の情報はまだありません。ただ我々としては、やはり9月議会、いずれ遠からず来ますので、この後またどういう形で対応するかはこれから検討しなきゃならないということ。

ただ基本的に、やはりかなりの数のメール、あるいは様々な知事への手紙等がまいておられます。相当の数であります。ほぼ、ほぼ大半が、何とか生きる道を、生かす道をといて、そういう内容でありまして、我々もですね、何とかこれをですね、生かしたいというそういう基本的な考えの中で、今、正直言って苦慮しているという状況であります。

ただ、やはりこれ時間が経つとですね、またいろんな状況も変わってきます。私どもとしては、これについて未だやはり希望を捨てずにいろいろなところと当たっているという状況ではありますが、なかなかこの種のもの相手もですね、そう簡単に、検討はすると言うけれども、それじゃあその検討の結果いつまで検討をするとか、そういうところはなかなかないんですよ。それから、ほかとのにらみもありますのでね、いろいろなところに新しい話がね、来たりするんですよ。実は、2、3日前も海外から、観光で竿燈を見に来た方がですね、その話を聞いて、国に帰ってから少しそういうところに話し合い、同じような施設があるからちょっと声をかけてみようとかね、そういう(話が)随時来るものですから、我々としてはもうちょっと、これはそんな結論を早める必要はないのかなと思っております。ただ、できれば早く方向性だけでもね、決めたいと思っておりますけれどもね、なかなかそこまで至ってないです。

(記者)

あと、改めてちょっと1点確認させていただきたいんですが、知事はこれまで、冬を越えることはないというような趣旨の発言をされておりますけれども、ただ、その後だんだんこう記者会見の中で、飼ってくれるところがあるなら冬を越すこともというふうにおっしゃってもおって、ただその一方でですね、実際これまで飼っていた女性従業員は亡くなられて、まあそういった冬飼うノウハウもないと。実際、その経営者の方からもちょっと冬を越すのは自信ないなというような話もあるんですけれども、その点についてはいかがお考えですか。

(知 事)

あの、何と申しますか、ある程度のその見込みがあればね、私はやはり冬を越しても、相手の受け入れがまだ、例えば施設を整備するなり受け入れ状況を整えるために少し時間かかる、そういう状況であればね、何とか努力して冬をね、越させなきゃならないと思っ
てます。冬が来るから自動的にオフリミットという、そういうことでは私はいかないと思
いますし、やはりそこは希望を持って努力するという姿勢は必要じゃないかと思
います。世界からも寄せられている、国内からも寄せられている意見としては、何とか頑張っ
てくれという話であります。そういう際に我々としてはですね、その方々、いろんな形でボラ
ンティア的に基金を募るだとか寄附をしたいという話もございますけれども、なかなかで
すね、一定の方向が出てくれば、これがそういう形でそのための移送費に使うだとか、そ
こまで、例えば引き取ってくれるところがある、日程がね、出てくれば、それまでの間の
形で資金援助を受けると、そういうことは明確に県としてはできるんですけど、まだそ
こまで行ってないんですけども、何とか今いろいろと手を尽くしているということしか今
のところ言いようはないですね。

(記 者)

最後に1点。その募金というのは何か県の方で改めてどっかにお願いするということは
あり得るんですか。

(知 事)

あの、現実に、なかなかその県の金となるとね、難しいルールがありますけれども、た
だ、こちら辺もですね、やはり正式にそういう形にするとすると、やっぱり方向性が決ま
らないでね、募金はしましたと、もう途中で手を挙げましたというわけにはいかないと思
いますね。

やはり人様からお金をいただくということは、まあ任意で来てるものはあるんですけ
ども、やはり責任を持って方向性を定めないとですね、これはちょっと行政としては無責任
になるのかなと思っていますので、ただいづれそういうふうには持っている状況を何とか
つくりたいなと思っているのが今の状況です。

(記 者)

ありがとうございます。

(幹事社)

すいません、時間も迫っているようなのですが、あと1問ほど、おありでしたら。

(記 者)

すいません。知事、内館牧子さんにお手紙を出されて、全県駅伝について直ちに関係者
と実現に向けた協議に入りたいというようなお話をされてるようですけれども、実際にこ
れは復活を検討されるのでしょうか。

(知 事)

はい。あのですね、実は、私、平成16年に、これは固有名詞出して申し訳ございません、毎日新聞社さんですね、駅伝の。これ、今まで高校駅伝がね、大潟村のあのコースでやってたんです。

実際、誰も楽しくない。走る人もね、応援してくれる人もいないとね、盛り上がらない。当時、秋田市長の時に、当時の毎日新聞の支局長さん、女性の方でなかったかな、だよな、毎日新聞さんいる？分かるでしょう。女性の方でなかったかな。別に女性の支局長さんだからという意味じゃないけど。その時に秋田市長としてもね、何とか秋田市内で走らせたいたいということで、いろいろ、かなり大変だったんですよ。ただ、できた、できたんですね。

ですから、やはり経緯を見ますとですね、どうも中止になったのが、予算的なものもあるでしょうし、あれですけれども、やはり交通事情、こういうものもあったんですけども、しかし交通事情というと、そうすると東京だってね、青梅マラソンだとかね、すごいやってるわけですね。ですから、完全に昔と同じ形態がいいのかどうか別にして、この間も例の与次郎駅伝みたいな、ちょっとあれはアトラクショナルなあれ(駅伝)ですけども、やはりその全県がですね、少し盛り上がるような、ある程度のそういう、ほかの試合っていうのは一瞬で決まりますけれどもね、こう、そういうものがね、完全にスポーツ的にやるのか、あるいは町おこし的にやるのか、あるいはそういうものが半分半分でやるのか、そういうものも含めてですね、もう一回その白紙の状態ですういう駅伝的なね、スポーツイベントがやるとするとどうなのかということ、私は今考えてもいいと思うんですよ。

マラソンもね、非常にすごいですよね、どこも。とにかく走るのに対して非常にお客さんが来るというか、出場者が多い。そういうことで、スポーツ振興課の方にはですね、来年検討するというんじゃなくて、来年の予算までにある程度のそういう、実際に調査するにしてもね、来年度の予算に何らかの形でね、検討調査だとか路線の調査だとか具体的な少しの道筋が分かるように、まず至急というか、もう、来年の予算というのは10月から入りますから、それまで少し詳細をですね、幾つかの案を練るよということ、そのために関係者とも協議するよということ、指示したわけでありまして、その裏づけの手紙であります。

(記 者)

そうしますと、来年度当初予算に調査費を計上する方向であるというふうに理解しましたが、開催を実際するとすれば、どのあたりというか、スケジュールは。

(知 事)

いや、まだですね、ここら辺はね、やはりいろんなほかの大会等もありますのでね、やっぱりスポーツ関係者のね、特に陸上競技関係の関係者、あとはいろんなイベントをね、あったりします。

そういう、どこに入れればいいのか。まああと、会場となりますと、今度はね、やはり道路規制の問題、警察ともかなり、警察当局との関係もございますし、また、地元の市町村、そういうところの状況もございますので、それらをこれから予算時期までいろいろと

構想を練ろうということです。

(記者)

分かりました。ありがとうございます。

(知事)

その節には報道機関にもよろしくひとつ御協力いただきたいということです。

(幹事社)

そのほか、大丈夫でしょうか。

それでは、会見の方を終わらせていただきます。ありがとうございました。

(知事)

はい、どうも。